

# リーディングからスピーキングへの有機的な関連を図る指導

－聞き手を意識した発表を目指して－

幸 建志

「幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」これは、学習指導要領の英語Ⅱの目標である。つまり、4技能（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」）を有機的に関連させた指導をおこない、英語Ⅰで培った生徒の力をさらに伸ばすことをねらいとしている。関連のさせかた次第でさまざまな授業展開が考えられるが、このたび教科書の読解から生徒の主体的な自己表現活動への有機的な関連を図る授業に取り組んだ。その授業を通して得られた成果や課題を考察したい。

## 1. 指導のねらい

学習指導要領の目標から考えると、4技能それぞれを個別に指導していくのではなく、それらを有機的に関連させた指導をしていくことで生徒の力をつけていくことが重要である。学習指導要領では、言語の使用場面と働きについて、「総合的な言語活動の場面を設ける」とある。つまり、それぞれの技能を結びつけた活動を設定することである。例えば、聞いた情報をまとめたり、読んだ内容について自分の考えをまとめたり、またそれらを相手に積極的に発信したりすることである。そのような学習を通して、生徒の力をより付けていくことが求められている。今回はリーディングからスピーキングへつなげていくことを目指した。実際に生徒にどのような学習効果があったか、課題は何かを考察したい。

## 2. 方法

- 1) 期間 2005年9月～10月（約1ヶ月間）
- 2) 対象 高等学校2年生1クラス（41名）
- 3) 題材 NEW LEGEND ENGLISH II Lesson7  
Advertising - Selling a Product

### 4) 題材決定の理由

情報化社会といわれる今日、私たちの日常生活にはさまざまな情報があふれており、私たちは大きな影響を受けている。その一つは広告である。この教科書の本文では、消費者が同種の製品の中からある銘柄を選ぶのはなぜか、ということを発端に広告の影響について述べられている。さらに、広告の情報は完全ではないことや消費者の購買意欲の引き出し方、その科学的研究なども述べられている。

題材決定の理由は、テーマが「広告」であり、このテーマが、さまざまなメディアを通して多くの情報に日常的

に触れている生徒にとって身近であると推察したこと。また、読んだことをいかして、広告作成・発表という学習につなげやすいのではないかと考えたことである。

### 5) 時間配当と指導過程（全7時間）

- ① 第1時、第2時 ～ 本文の読解
- ② 第3時、第4時 ～ 広告作成
- ③ 第5時 ～ リハーサル
- ④ 第6時 ～ 実演
- ⑤ 第7時 ～ まとめ

### 6) 指導内容の具体

#### ① 本文の読解

広告作成につなげるために、「どのような広告がよいと筆者は述べているのか」ということを中心にポイントを絞って読み取らせた。テキスト本文は全部で6セクションに分かれている。第1時間目はセクション[1]～[3]、第2時間目はセクション[4]～[6]の読解をおこなった。各セクションの要旨は次のとおりである。

[1]消費者が多くの同種の製品からある銘柄を選ぶのは、広告の影響が大きい。

[2]しかし、広告の情報は完全ではない。

[3]消費者の購買意欲を促す方法①

（もっとうまくいっている方法の一つは、私たち自身と私たちの不完全な生活に不満を感じさせること。）

[4]消費者の購買意欲を促す方法②

（私たちがある製品を買うプラスの要因は、よい自己の印象を望むということ。）

[5]消費者の心をつかむために科学者を使って調査・研究が行われている。

（色や言葉の研究。）

[6] 広告は予想以上の影響力を消費者に与えている。

このように見ていくと、広告作成に直接関わってくる内容を扱っているのは、セクション[3]~[5]である。

## ② 第3時、第4時 ~ 広告作成

第3時ではまず、次のようなプリント(資料1)を使って、本文を振り返らせ、自分たちの広告作りにかすようにした。1グループ4、5人にしたが、グループ分けは出席順に機械的にこなった。

資料1: 教科書本文の復習・確認プリント

Lesson 7 Advertising: Selling a Product
☆ 効果的な広告とはどのようなものか。本文を振り返り、それらをまとめ、自分たちの広告作成に活かそう。
[3]
[4]
[5]

次に確認したことを踏まえて、どのような広告がよいものかをさらに自分たちで考えさせた(資料2)。生徒からの意見としては、「インパクトがある」「おもしろい」「わかりやすいもの」「ユニークで魅力的」「個性的」「最後に決めの台詞がある」「商品名をアピールしている」など、漠然としたイメージを述べたものから広告作成に使える意見まで多く出た。

また、これからの広告作成の流れ(資料2)を知らせた。作成の順序としては、

- ① 何を商品として扱うか。
- ② どういう話の流れにするか。
- ③ 台詞や動きを決める。

という順序でおこなうこと。

さらに、作成上の注意として、

- ① 広告は1分以上2分以内のものにする。
- ② 広告の中で全員が必ず話す場面を作る。
- ③ 小道具を作っても使ってもよい。

とした。①の時間設定については、50分の授業時間内に全10グループが発表し、発表ごとにその場で生徒たちが評価をしていくことにしていたので、この程度が適当ではないかと考えた。②については、今回の目標をリーディングからスピーキングへつなげる授業としていたので、必ず全員が話す場面を作ることにした。

最後に、発表する際の評価の規準(資料2)を生徒に

知らせ、それを意識して広告を作るように指導した。

評価の規準は、

- ① グループ発表において協力し合っていたか。
- ② 正しい強勢、イントネーション、適切なスピード、音量で話していたか。
- ③ 平易で簡素な表現を用いるなど聞き手にわかりやすい工夫をしていたか。
- ④ 聞き手が購買意欲をかき立てられる工夫をしていたか。
- ⑤ 教科書L7で書かれていたことが盛り込まれていたか。

とした。簡潔に言えば、①は「協力体制について」、②は「英語そのものについて」、③・④は「工夫したことについて」、⑤は「教科書で学習したことをいかして」ということになる。

資料2: 広告作成について

広告作成
<どのような広告が効果的か?>
・
・
・
・
・
<これから2時間の流れ>
1. グループごとに何を商品として扱うかを決める。
↓
2. どういう流れの広告にするかを決める。
↓
3. 台詞や動きを決める。
<作成上の注意>
1. 広告は1分以上2分以内のものにする。
2. 広告の中で全員が必ず話す場面を作る。
3. 小道具を作っても、使ってもよい。
<評価の規準>
次のことを評価する際の規準にするので、意識しておきましょう。
① グループ発表において協力し合っているか。 (グループ内の意思疎通が図られているか)
② 正しい強勢・イントネーションや、適切なスピード・音量で話しているか。 (基本です)
③ 平易で簡素な表現を用いるなど聞き手にわかりやすい工夫をしているか。 (自分たちだけがわかっていても・・・)
④ 聞き手が購買意欲をかき立てられる工夫をしているか。 (買ってみようかなあ)
⑤ 教科書L7で書かれていたことが盛り込まれていたか。


では、広告作成に入りましょう。

また、原稿を作っていく際に、プリント(資料3)を利用し、場面設定や状況を絵などでまとめ、右側に英語でナレーションや台詞を作らせ、完成原稿を提出させた。次のものはあるグループの完成原稿である。

資料3：原稿作成プリント

English 1 Lesson 7 Advertising - Selling a Product  
作成原稿

Create an advertisement!

Group ( )  
Member 大田の 藤原の 森田の 藤原の  
(Leader)

1. Product 野菜ジュース The name Uge Man / oo

2. Content

① (場面設定・状況を見本でまねてみる) (英語でシナリオ、台詞を作る)

場面1: <At a house>  
F: You should get up!! It's 8 o'clock.  
M: Oh no!! I have no time to eat breakfast.  
F: Here is it. You should have Uge Man!!  
M: Thank you, good bye~

場面2: <At another house>  
M: Oh no!! It's 9 o'clock.  
I've already been late for school.  
And I have no time to eat breakfast.  
I must hurry.

場面3: <In the classroom>  
T: I will return the test while you eat/work.  
S: Yes, yes!!  
T: Stop, Vegetarian. You did well.  
V: Thank you, Yeah~  
T: Note... You must study harder.  
M: Oh, no...!!  
V: Did you eat breakfast?  
M: No, I don't have time.  
V: No wonder. But I drank Vegetarian. Drink Vegetarian and you will enjoy everyday.

場面4: <Keep and happy!!>

Lesson 7

③ 第5時 ~ 練習

他のグループの生徒がいないところで、実際に筆者の前でやらせてみた。実際にやってみると、話の展開が滑らかに進まなかったり、グループ内の相手との呼吸があわなかったり、台詞を言うのに精一杯で体の動きが伴ってなかったり、声が小さかったり、緊張して台詞が出てこなかったりと、改善すべき点が多く見え、本番までに修正する点が明らかになった。

④ 第6時 ~ 実演

この日は、当校の第35回教育研究会当日であった。当校のマルチメディアホールで多くの先生方を前に広告発表をすることは、この活動に入った当初から知らせていたので、生徒たちの心づもりはできていたと思うが、やはり多大なプレッシャーの中での発表となった。全部で10グループあったが、授業の最初に、Evaluation Sheet (評価用紙) (資料4)を各グループに9枚ずつ渡しておいた。自分たち以外のグループを評価するためである。

評価の規準は、

- ① グループ発表において協力し合っていたか。
- ② 正しい強勢、イントネーション、適切なスピード、音量で話していたか。

- ③ 平易で簡素な表現を用いるなど聞き手にわかりやすい工夫をしていたか。
- ④ 小道具やジェスチャーなど視覚的に効果的なものを用い、注意をひく工夫が見られたか。
- ⑤ 教科書L7で書かれていたことについて、いずれかが盛り込まれていたか。

- \* 私たち自身や生活の中での満足いかないこと、不便な点を入れていた。
- \* 私たち自身の「よい自己観」(a good self-image)を効果的に取り入れていた。

とした。評価規準の④と⑤については、広告作成の際に生徒に知らせたものを少し修正し、より具体的にした。1項目につき1~4点で合計20点として評価させた。

資料4：Evaluation Sheet (評価用紙)

L7 Advertising - Selling a Product

Evaluation Sheet

Group ( )

1. 各グループの発表を見た直後に、自分のグループ内で評価をし、リーダーが幸のどこまで持ってくる。これを毎回おこなう。
2. 評価項目1~4については1~4点ずつ付けていく。5については、Yesならば4点、Noならば0点とする。20点満点中の総合得点も書く。
3. 評価する時間は2~3分程度。
4. 先生が総合点を集計し、最後に結果発表。



発表グループ ( )

評価項目	ポイント
1. グループ発表において役割分担などをして協力し合っていたか。	1-2-3-4
2. 場面に適切な声の大きさ・発音・イントネーション・スピードで英語を話していたか。	1-2-3-4
3. 平易で簡素な表現を用い、聞き手にわかりやすい工夫をしていたか。	1-2-3-4
4. 小道具やジェスチャーなど視覚的に効果的なものを用い、注意をひく工夫が見られたか。	1-2-3-4
5. 教科書L7で書かれていたことについて、 いずれかが盛り込まれていたか。	Yes. 4 No. 0
* 私たち自身や生活の中での満足いかないこと、不便な点を入れていた。	
* 私たち自身の「よい自己観」(a good self-image)を効果的に取り入れていた。	
Total ( ) / 20 points	

以下は1グループごとの展開である。

- a) あるグループが舞台に出て発表する。
- b) 終了後すぐに発表グループを除く全員が各グループ内で評価をし、筆者に提出する。
- c) 筆者はすぐに各グループから出された得点をエクセルであらかじめ作っておいた集計表(資料6)に打ち込む。これは、授業の最後に結果発表をするためである。

これを10グループ繰り返した。以下に各グループの商品名と扱ったもの(資料5)を示す。なお発表順はくじ引きで決めた。

資料5:商品名と扱ったもの

	商品名	扱ったもの
A	Quartette	電子辞書
B	Mori Mori Milk	牛乳
C	Packy	ポッキー
D	Fairy Clean	台所洗剤
E	Notional Liquid Crystal TV Set	テレビ
F	F-word	電子辞書
G	NANO	掃除用スポンジ
H	COOL	目薬
I	Vege Man 100	野菜ジュース
J	X-dictionary	電子辞書

資料6:結果集計表

CM Contest												
発表順		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	Total
1	B	16	20	19	13	16	14	16	20	19		153
2	H	20	20	19	19	20	20		20	19		177
3	J	20	16	19	16	15	18	16	16	18		154
4	G	17	19	17	16	17	19		17	18	18	158
5	E	17	18	19	19		19	19	15	18	20	164
6	F	18	18	17	17	16		17	17	17	18	155
7	D	18	18	19	17		19	20	20	17	18	166
8	A		20	20	17	20	20	20	19	20	20	176
9	I	17	18	20	16	12	18	18	18		18	155
10	C	18	19		17	17	16	19	19	17	18	160

最後に、生徒に今回のCM発表の活動を振り返らせ、一人ずつアンケート形式(資料7)で答えさせた。

アンケート項目は、

1. グループ活動全体を通して、自ら積極的に関わったか。
2. 原稿作成において、平易な表現を用い、聞き手にわかりやすくする工夫をしたか。
3. 小道具やジェスチャーなど視覚的に効果的なものを用い、注意をひく工夫をしたか。
4. 教科書L7で書かれていたこと(私たち自身や生活で満足いかないことや、私たち自身の「よい自己観」(a good self-image)を自分たちの広告の中に

いかせたか。

5. 本日の発表において、自分の声の大きさ・発音・イントネーション・スピードはどうだったか。(自由記述)

6. 英語のReading, Listening, Writing, Speakingの能力伸長という点において、今回の活動は自分にとってどれほど効果があったと思うか。

- (1) Reading
- (2) Listening
- (3) Writing
- (4) Speaking

7. 全体を通しての感想・今後の課題などを書いてください。(自由記述)

とした。1~4については、「4よくできた、3できた、2あまりできなかった、1できなかった」、6については、「4とても効果的だった、3効果的だった、2あまり効果的でなかった、1効果的でなかった」から当てはまるものに○をつけさせた。5と7については自由記述で書かせた。1から4を選ばせる項目についてはそのまま集計し、平均値を出した。以下にその値を示す。

<アンケート集計結果:平均値(41人)>

1. 3.54 2. 3.56 3. 3.59 4. 3.29  
6(1) 2.83 (2) 3.37 (3) 3.02 (4) 3.70

<自由記述回答例>

5. 「声の大きさ・発音・イントネーション・スピード」について

- ・もう少しゆっくり言って慌てずにできればよかった。
- ・聞き取りやすいように、ゆっくり言うことを心がけた。
- ・もう少し感情を込めたらよかった。
- ・声の大きさはよかったと思うけど、発音のことを無視してやってしまった。
- ・自分の言うところは特に商品のアピールのところだったので、できる限りゆっくり大きな声で発音した。
- ・特にイントネーションは満足できたが、スピードが速くなりすぎて発音が曖昧になってしまった。

7. 「全体を通しての感想・今後の課題」について

- ・まず何を宣伝するのかを決めることが一番難しかったです。それからどういうストーリーで見ている人の注意をひくかとか、どのようなものを使ったらより伝わるかということを考えていくだけだったので楽しかった。
- ・全体的にクオリティが高かった。しかし、観客とのアイコンタクトが少なかったような気がする。
- ・日本語なら簡単な表現をわかりやすい英語にするのが難しかった。
- ・もっと自分の言いたいことをわかりやすく相手に伝えられるような英語力を身につけたいと思った。

- ・他のグループ発表を見て自分のグループの改善した方がいいところがあったので、人の発表を見るのはとても参考になると思った。
- ・同じ商品を売るにしても、グループが違うと表現方法も違っていてとても楽しかった。
- ・多くの人の前で恥ずかしがらずにできるようになることが今後の課題です。
- ・最初はいやだったけど、だんだん楽しくなってきた。人前で英語を話すということを積極的にやっていこうと思った。
- ・練習を重ねるうち、士気が高まってやる気になれたのはよかった。

資料7：授業後のアンケート

L.7 Advertising・Selling a Product	2005.9.30
CM 発表の活動を振り返って	
グループ ( ) 5 ( ) No ( ) Name ( )	
1. グループ活動全体を通して、自ら積極的に関わったか。 4よくできた 3できた 2あまりできなかった 1できなかった	
2. 原稿作成において、平易な表現を用い、聞き手にわかりやすくする工夫をしたか。 4よくできた 3できた 2あまりできなかった 1できなかった	
3. 小道具やジェスチャーなど視覚的に効果的なものを用い、注意をひく工夫をしたか。 4よくできた 3できた 2あまりできなかった 1できなかった	
4. 教科書L.7で書かれていたこと(私たち自身や生活で満足いかないことや、私たち自身の「よい自己観」(a good self-image)を自分たちの広告の中にかいせしたか。 4よくできた 3できた 2あまりできなかった 1できなかった	
5. 本日の発表において、自分の声の大きさ・発音・イントネーション・スピードはどうだったか。(自由記述)	
6. 英語の Reading, Listening, Writing, Speaking の能力伸長という点において、今回の活動は自分にとってどれほど効果があったと思うか。	
(1) Reading 4とても効果的だった 3効果的だった 2あまり効果的でなかった 1効果的でなかった	
(2) Listening 4とても効果的だった 3効果的だった 2あまり効果的でなかった 1効果的でなかった	
(3) Writing 4とても効果的だった 3効果的だった 2あまり効果的でなかった 1効果的でなかった	
(4) Speaking 4とても効果的だった 3効果的だった 2あまり効果的でなかった 1効果的でなかった	
7. 全体を通しての感想・今後の課題などを書いてください。(自由記述)	

3. 反省と課題～アンケート結果から見えるもの～

1については、ほとんどの生徒が活動全体を通して積極的な関わりができたと答えている。「最初はいやだったけど・・・」という感想が自由記述のなかに見られたが、「練習を重ねていくうちに、志気が高まっていった」と、意識の変化も見られた。また、グループで活動し、最後にはコンテストをおこなうという展開だったので、グループ同士でお互いに刺激しあっているものを作ろうという動機付けが出来やすかったといえるのではな

いか。

2については、18人が3ポイントをつけていたが、全体的には平易な表現を用い、聞き手にわかりやすくする工夫をしたと答えている。しかし実際にやってみるとまだまだ工夫の余地があったという感想も見受けられた。リハーサルを重ねれば、より改善されると考えるが、時間的な制約もあり、そのような中での指導内容の質の向上も課題の一つである。

3については、ほとんどの生徒が小道具やジェスチャーなど視覚的に効果的なものを用い、注意をひく工夫をしたと答えている。広告作成の段階で一番苦勞した点である。聞き手を意識し、どうすれば注意を喚起出来るかをよく考えた結果であると受け止められる。

4の教科との関連づけについては、34人が3か4を付けているが、7人が2(あまりできなかった)を付けている。今回の学習のテーマがリーディングからスピーキングへの有機的な関連を図ることだったので、この関連づけができずに広告作成が独立したものになったことは、今回の学習のねらいからずれている。「面白さや」「インパクトの強さ」に重きが置かれ、実際にできあがったものは教科書で学んだことを活かしきれなかった。作成の過程で筆者自身が注意してきたつもりだったが、指導が行き届かなかったことは、反省すべき点である。

6についてはListeningとSpeakingの能力伸長に効果を見いだしている生徒が多かった。Readingの点数が低い、2時間でおこなった教科書の読解についてはそれほど困難なものでなかったということだろうか。生徒の意識には、発表したり他のグループの発表を聞いたりすることに意義を見いだしている。

自由記述の5では、声の大きさ・発音・イントネーション・スピードの点でもっと聞き手を意識して出来ればよかったという反省が多かった。声の大きさを意識しすぎて発音が曖昧になったということについては今後の音読活動に活かしていきたい。

自由記述7では、自分の英語力の問題や効果的な表現法の工夫など、今後の英語学習にも活かせる反省や感想が多かった。また、他人の発表を見て、自分たちの発表を振り返り、改善すべき点を見いだした生徒もいた。

今回の授業を通して、生徒は教科書を読解し、広告を作成し、発表するという活動をおこなった。生徒がアンケートにも書いていたことでもあるが、スピーキング力の伸長に効果的であったと考えている点を今後の学習にも活かしていきたい。ただし、スピーキング力を付けるといっても、そのやり方はさまざまである。今回のように作成したものを人前で演じることで伸びる力もある。スピーチのように自分の体験や考えを数分間かけて発表するもある。今回、広告を演じる練習の際に特に生徒に

対して言ったことは、「発する言葉に意味や気持ちに乗せる」ということであった。覚えた台詞をただ言うのではなく、状況を考え、そのときの気持ちを考え、表現するように指導した。広告を発表することはできあがったものを演じるのであるが、まずはこのような限られた状

況の中でいかにわかりやすい表現を使い、いかに自然に効果的にできるかが重要であると考えた。その経験を大切に、今後のスピーキング能力の伸長に結びつけていけるよう継続して指導していきたい。